

宗門校トピックス

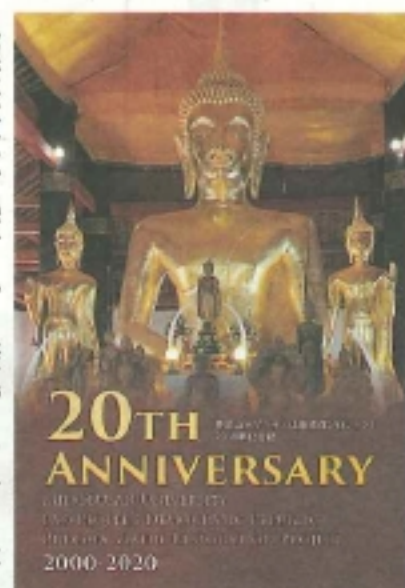


ラオスで仏像修復20年

記念誌発行 現地の人材育成も進む

身延山大

身延山大(山梨県身延町)は、「ラオス仏像修復プロジェクト20周年記念誌」を写真とイラストを交えて発行した。2000年からラオス・ルアンパバーン世界遺産地区で行ってきた修復活動と現地技術者の育成成果をまとめることも、プロジェクトにより進展した東南アジアの仏像素材に関する研究を紹介する。



上座部仏教が盛んなラオスには数多くの寺院と、仏像が存在し、現在も仏教信仰が人々の生活に深く根付いている。しかし、長期の内戦で散逸や損傷が進み、制作・修復の伝統技法もほぼ途絶えた。盗難も頻発しているとい

成。すでに約80体の修復を完了した。旭日重・日蓮宗大本山北山本門寺貫首を会長に「ラオス仏像修復サポーターズクラブ」が発足し、支援の輪も広がっている。

記念誌で柳本特任教授は「当初は修復の概念すら感じられなかった。多量による修復を先導する人材も育ってきた。王宮博物館で10周年記念修復展を開催したこともあり、活動を現地で存在感を高めている。3Dスキャナーで計測したデータの保存も進め、文化財情報の継承も図る。」

戦禍により仏像に関する情報も多くが失われた。修復方針を決める上で制作年代を明らかにすけるなどあり得ないが、首を持ち去られてなお仏像として信仰を続けるラオス人にとって、仏像の首を取り戻すことは、地域住民の悲願であったのだ」と記す。



われた頭部を制作することもある。「日本においては、全く資料のないブロンズ頭部を製造して付けるなどあり得ないが、首を持ち去られてなお仏像として信仰を続けるラオス人にとって、仏像の首を取り戻すことは、地域住民の悲願であったのだ」と記す。

購入者にクッキーを手渡す国際挑戦科の生徒ら(京都光華高校提供)

刻まれた銘文の解説など開するといふ。冊子は関係者のみに配布。一般向けに同大ホームページで電子版を公開している。(有吉英治)

祇園祭に「参加」できる京都ならではの佛教大の講義が人気を集めている。

八木教授は約30年前に「綾傘鉾」の保存会の理事に就任し、祇園祭の山鉾を維持管理する山鉾町の高齢化を目的とした。「綾傘鉾を運営する善長寺町でも人手不足となり困っていたため、ゼミ生の少人数をボランティアとして参加させたことがきっかけで講義へと発展した」

八木 透教授

祇園祭に講義で「参加」

学生らは座学で祇園祭に「参加」できる。講義を受けた学生からは「100回の授業を受ける」といふ声も聞かれた。

学生らは座学で祇園祭に「参加」できる。講義を受けた学生からは「100回の授業を受ける」といふ声も聞かれた。

「学生が祇園祭に関わる環境を残していきたい」と話す八木教授

「学生が祇園祭に関わる環境を残していきたい」と話す八木教授



「学生が祇園祭に関わる環境を残していきたい」と話す八木教授

「学生が祇園祭に関わる環境を残していきたい」と話す八木教授

佛教大歴史学部歴史文化学科

クッキー販売で支援

売り上げをウクライナに

国際挑戦科の生徒ら

京都光華

真宗大谷派の関係校・京都光華高(京都市右京区)の国際挑戦科の生徒ら13人が6月27日、ロシア

購入者にクッキーを手渡す国際挑戦科の生徒ら(京都光華高校提供)

購入者にクッキーを手渡す国際挑戦科の生徒ら(京都光華高校提供)